

<旧ドイツ語圏研究所出版物>

『EUとドイツ語圏諸国』南窓社刊 2000年

木村直司編
まえがき

シンポジウム開会の辞 オーストリア大使 マーティン・ヴコヴィッチ
国際政治から見たヨーロッパ統合 猪口 邦子
ドイツ連邦共和国とEU 木村 直司
ヨーロッパとは何か ジャン・クロード・オロリッシュ
ヨーロッパの再生 ヘルムート・ロイスカンドル
EUとドイツ経済 ドイツ公使 ウルリヒ・ユンカー
EUと環境政策 ルクセンブルク大使 ピエール・グラメーニャ
欧州通貨統合と日本 吉野 忠彦
ヨーロッパ統合と独仏関係の展開 中村 雅治
EUと各国法 滝澤 正
EU拡大と東欧 六鹿 茂夫
EUと民族 宮島 喬
ヨーロッパに対するスイスの意義 ロベルト・シュネーベリ
スイスの社会構造と女性の場 ルネ・レヴィ
多文化国家スイス 八幡 康貞
ユーロ導入とスイス経済 岡本 佳郎
付録 ディスカッション記録

German Unification and Transformation of Europe 1998年

—Analysis in Modern German Sociology— SOPHIA SYMPOSIUM 1995

Alternative Paths of Societal Development and the Dynamics of German Transformation
Wolfgang Zapf

A Comment to Professor Zapf's Paper
Ken'ichi Tominaga

The Acceleration of West European Integration as
Part of The Transformation at The Core of World Society
Volker Bornschier

A Comment to Professor Bornschier's Paper
Shujiro Yazawa

Social Integration, National Identity and German Unification
Reinhard Kreckel

A Comment to Professor Kreckel's Paper
Takashi Miyajima

未来都市ベルリン DIE ZUKUNFTSSTADT BERLIN 東洋出版 1995年

—ベルリン2000年のビジョン—

木村直司<編>

ベルリンの都市計画 フォルカー・ハッセマー
ベルリンの国際的地位 —発展と展望— ティロ・グラーフ・ブロックドルフ
ベルリンと東方 加藤雅彦

将来の首都ベルリンと周辺地域の統合 ハンス・ライスター
学問分野間のコンタクト―諸文化のコンタクト ヴォルフ・レペニース
―ベルリンの諸学問―
学術都市ベルリン ―ベルリンの自然科学と工学― マンフレート・フリック
ベルリンの研究とテクノロジー 外林秀人
博物館都市ベルリン ヴェルナー・クノッフ
オペラ都市ベルリン ―その過去と未来― ゲッツ・フリードリヒ
ベルリンの大衆文化とアヴァンギャルド文化 ―昨日、今日、明日― 平井正

最近のベルリン事情 ―現地在住の―日本人の観察― 生田千秋
日本の国際観光にとっての宝庫ベルリン 坂本康實
ベルリンの未来像 (シンポジウム報告) 小泉進
付録 パネル展「ベルリン2000年のビジョン」 コルネリア・ポシュカ

ドイツ人とスイス人の戦争と平和 南窓社 1995年

中井晶夫<著>

第1部 ゲオルク・ミヒャエーリスと第二帝政ドイツ
第1章 有能なプロイセン官僚
第2章 帝国宰相ミヒャエーリス
―教皇ベネディクト15世の和平工作とその対応を中心に―
第2部 オトフリート・ニッポルトの戦争と平和
第1章 「国際理解のための連盟」とニッポルト
第2章 第一次世界大戦の責任論と原因論
第3部 ミヒャエーリスとニッポルトの近代日本観
第1章 ミヒャエーリスの日本体験
第2章 ニッポルトの見た日本の近代化
総括的考察

大ハプスブルク帝国 南窓社 1994年

L.アルムブルスター、C.ツェーリック <共編>

ハプスブルク帝国と民族問題 矢田俊隆

ハプスブルク家の奇跡 ハンス・ブライテンシュタイン
―宿敵オスマン・トルコからのヨーロッパの解放―

ハプスブルク家最後の栄光 ―1848～1918年― マリアンネ・ラウヒェンシュタイナー

19世紀オーストリア宮廷の制服とモード ゲオルク・J・クーグラール

ヨーゼフ主義とその歴史的意味 丹後杏一

ウィーン宮廷のイエズス会劇 マーグレット・ディートリッヒ
―切支丹に託したオーストリアの敬虔なる心―

「大ハプスブルク帝国」と日本の江戸時代の地図 コーネル・ツェーリック

独ソ・日米開戦と五十年後 ―日・米・独・ソ国際シンポジウム― 南窓社 1993年

中井晶夫、三輪公忠、蟬山道雄<共編>

第1部 独ソ戦と日米開戦 ―1941年―

太平洋戦争へのアメリカの参戦 ジョナサン・G・アトリー

戦前日本の「太平洋戦争への道」 黒沢文貴
-陸軍の総力戦構想を中心にして-

1941年のドイツの政策 エバーハルト・イエッケル

日本の太平洋戦争突入とソ日関係 アレクセイ・M・フィリトフ

パネルディスカッション

総括 三輪公忠

第2部 五十年後の世界 -1991年-

諸地域からなる世界 ピーターJ・カツェンシュタイン
-アメリカ、ヨーロッパ、アジア-

日本の将来の行方に関する論争 猪口孝

独ソ関係の所局面 -1945年~1991年- ハンス=アドルフ・ヤコブセン

現代世界におけるソ独関係 -ソ連の視点- アレクサンドル・O・チュバリヤン

北方領土 -第二次世界大戦の最後の法的残滓- アレクセイ・V・ザゴルスキー

パネルディスカッション

総括 蟬山道雄

Beginnings of The SOVIET-GERMAN and The U.S.-JAPANESE Wars and 50 Years After 1993年

Part I : The Beginning of the Global War 1941

The United States' Entry into Pacific War
Jonathan G.Utley

A Prelude to Disaster:
The Japanese Imperial Army's Total War Plan before World War II
Fumitaka Kurosawa

German Policy in 1941
Eberhard Jaeckel

Japan's Entry into the Pacific War and Soviet-Japanese Relations
Alexei Filitov

Part II : Fifty Years After

A world of Regions: America, Europe and Asia
Peter J.Katzenstein

The Emerging Japanese Debate on Its Future Course
Takashi Inoguchi

Aspects of German-Soviet Relations 1945-1991

Hans-Adolf Jacobsen

International Relations from the Soviet Perspective:
Soviet-German Relations in the Contemporary World
(From the Division to the Reunification of Germany)
Alexandre Chubarian

Northern Territories: The Last Legal Remnant of World War II
Alexei V. Zagorsky

東西におけるファウスト 同学社 1993年
—独日中韓国際シンポジウム—

木村直司<編>

ドイツにおける『ファウスト』像の変遷 カール・ロベルト・マンデルコウ
韓国における『ファウスト』受容の諸相 郭福祿
中国における『ファウスト』受容 夏瑞春
日本における仏教的『ファウスト』受容 芦津丈夫
ドイツにおけるファウスト伝説素描 クリストフ・ペーレルス
昔の中国にファウスト伝説の素地があったか 張玉書
韓国になぜファウスト伝説がないのか 池明烈
ファウストの居る場所は何処なのか 柴田翔
非神話化されたファウスト 木村直司
—ディーター・ドルンの『ファウスト』演出—
ファウスト・シンポジウムの印象 ハインツ・T・ハム
シンポジウム・ディスカッション記録 三島憲一、大貫敦子 訳
シンポジウム報告 小泉進

ウィーン世紀末の文化 東洋出版 1990年

木村直司<編>

世紀末文学の文化的パトス 神品芳夫
思想の運命・都市の運命 八幡康貞
世紀末ウィーンの宗教的・思想的状況
—われらオーストリア人の生い立ち— ルートヴィヒ・アルムブルスター
フロイトとウィーン 野田倬
世紀末「ウィーンの近代建築」の成立をめぐって 伊藤哲夫
世紀末ウィーン美術 —あるいはクリムトの蛇— 谷川渥
陽気なミュージズの世紀末 田辺秀樹
—世紀転換期ウィーンのおペレッタとキャバレー—
世紀末ウィーンの日陰 鈴木隆雄
シュニツラーの描く女性たち ガブリエーレ・アンドレエ
ウィーンにおけるゲーテ・ルネサンス 木村直司

第二次世界大戦と現代 東京大学出版会 1986年
—日独仏国際シンポジウム—

加藤周一・中井晶夫・三輪公忠<編>

第一部 シンポジウム・第二次世界大戦と現代

アジア・太平洋地域における日本の位置 三輪公忠
—当時と現在—

ベルサイユ平和体制の崩壊
-1918-33年のフランスとドイツ- ジャック・バリエティ

独仏関係とヒトラーの対外政策プログラム ヨーゼフ・ベッカー

日中提携の曲折した道
-海を距てた友好と競合 宇野重昭

自民党支配と高度経済成長
-比較政治的試論- 升味準之輔

戦後の仏独関係 レイモン・ポワドバン

ドイツの分割 カール=オットー・レンツ

パネルディスカッション

討論総括 加藤周一

第二部 共同研究・戦前戦後の社会と政治

ドイツ青年運動と戦争 クラウス・ルーメル

背教としてのナチズム 木村直司
-テオドール・ヘッカーの『昼と夜の日記』

ドイツの亡命文学 ハインツ・ハム

国連憲章と旧敵国処置 小林宏晨

日本の非軍国化とドイツの非ナチ化
-戦後の変革を比較する- 中井晶夫

フランス国家と経済 中村雅治

占領下日本の新聞 春原昭彦

第三部 鼎談・第二次世界大戦と現代 加藤周一・中井晶夫・三輪公忠